

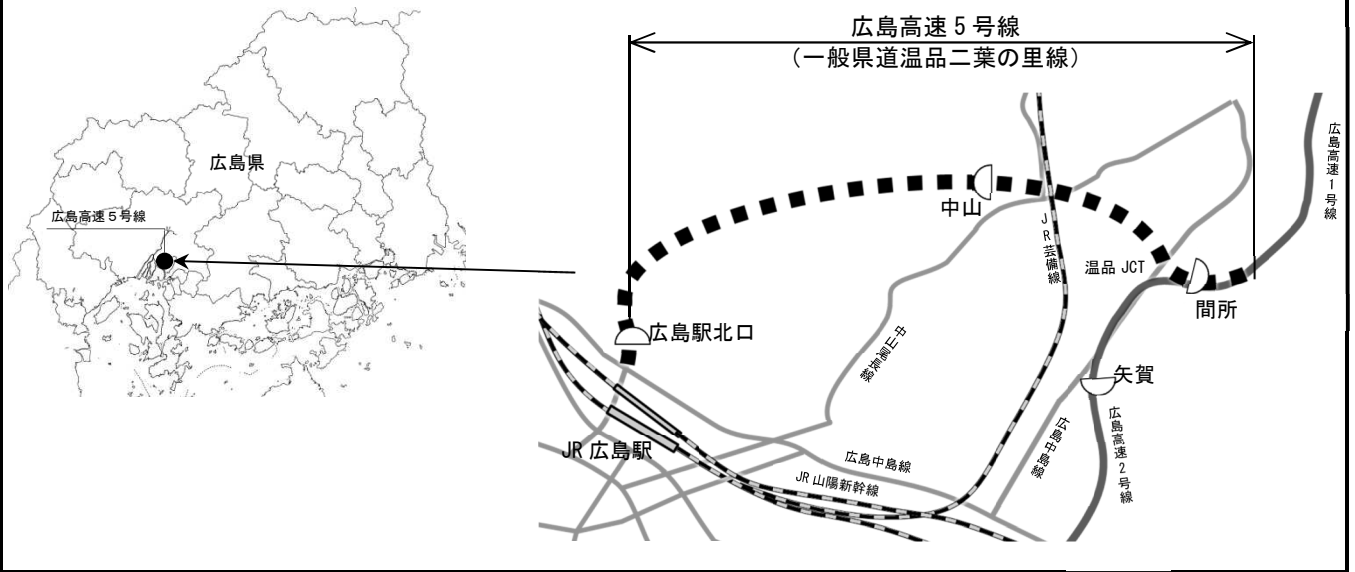
再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局高速道路課
担当課長名：伊勢田 敏

事業名	都市高速道路事業 <small>ひろしまこうそく ごうせん</small> 広島高速5号線	事業区分	指定都市高速道路	事業主体	広島高速道路公社
起終点	自：広島市東区温品町 <small>ひろしまし ひがしく ぬくしなちよう</small> 至：広島市東区二葉の里三丁目 <small>ひろしまし ひがしく ふたば さとさんちようめ</small>			延長	4.0km
事業概要					
<p>広島高速5号線は、広島市の都心と広島県東部地区及び広島空港との高速性・定時性の向上や、一般道路の交通混雑の緩和、広島駅周辺地区の開発促進などの役割を担う路線であり、都市高速道路事業（有料道路事業）と地方道事業（公共事業）の合併施行により事業を実施している。</p>					
H12年度事業化		H10年度都市計画決定		H12年度用地着手	
H18年度工事着手					
全体事業費	949億円	事業進捗率	約67%	供用済延長	0km
計画交通量	約8,900～約12,200 台/日				
費用対効果分析結果	B/C	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)
	(事業全体) 1.01 (残事業) 4.6	279/1,274億円 〔 事業費：257/1,253億円 維持管理費：22/22億円〕		1,292/1,292億円 〔 走行時間短縮便益：1,078/1,078億円 走行経費減少便益：157/157億円 交通事故減少便益：57/57億円〕	基準年 平成28年
感度分析の結果					
<p>(残事業) 交通量変動 : B/C= 4.5～4.7 (交通量 ±10%) 事業費変動 : B/C= 4.2～5.1 (事業費 ±10%) 事業期間変動 : B/C= 4.5～4.7 (事業期間 ±20%)</p>					
事業の効果等					
<ul style="list-style-type: none"> ・広島市の都心と広島県東部地区及び広島空港との高速性・定時性の向上 ・地域交流圏域の拡大や、広島市中心部へのアクセス性向上に伴う都市の機能・拠点性が強化 					
関係する地方公共団体等の意見					
<p>広島県策定の社会資本未来プラン（H28.3）及び広島市策定の広島市総合交通戦略（H22.7）において、重点的に取り組む路線として位置付けられ、国へも整備促進に向けた要望がなされている。</p>					
事業評価監視委員会の意見					
<p>事業継続を妥当と認める。 事業者は、引き続き、地域住民の理解と協力が得られるよう最大限努めながら、事業効果の早期発現を目指すこと。</p>					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
<p>平成26年3月に広島高速3号線が全線完成し、広島高速道路の計画延長29kmのうち、延長25kmが供用済である。また、広島駅周辺地区では、複数の開発計画が進められ、商業施設、集合住宅など、様々な施設立地が進んでいる。</p>					
事業の進捗状況、残事業の内容等					
<p>(事業の進捗状況) 用地進捗率約94%、事業進捗率約67% (残事業の内容) トンネル工事等</p>					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等					
<p>順次工事の進捗を図り、平成32年度の完成に向けて取り組む。</p>					
施設の構造や工法の変更等					
<p>トンネル工事において建設発生土の有効活用を図るなどコスト縮減に努める。</p>					
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変わらないため、事業を継続する。				

事業概要図

【位置図】



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。